

令和7年度 第3回苫小牧市スポーツ推進審議会結果報告書

【日時】 令和8年1月30日（金）18時00分 ～ 18時50分

【場所】 市役所5階 第2応接室

【出席】 ▽苫小牧市スポーツ推進審議会委員 8名（12名中）

本間会長、中村副会長、石田委員、植村委員、中村峰子委員、

西田委員、藤岡委員、林崎委員

※欠席 荒井委員、伊藤委員、金山委員、米山委員

▼事務局（市）

神保まちづくり推進室長

スポーツ都市推進課：森田主幹、伊藤課長、田中主査、山岸主査、

丸谷主事、石山主事、大上主事、前田主事

～～～以下議事要旨～～～

1 開 会

- ・事務局より、総合政策部長の山田が欠席となったこととスポーツ都市推進課課長補佐の東梅がプレミアム付き商品券室へ異動となったことを報告した後、本間会長から挨拶があった。

2 委嘱状の交付

- ・新任委員の植村委員へ、委嘱状を交付した。

3 新任委員自己紹介

4 報 告

(1) パブリックコメントの実施結果について

- ・事務局（山岸主査）から説明した後、本間会長から委員に意見を求めたが特に質問などはなかった。

5 議 事

(1) 第2期苫小牧市スポーツ推進計画（案）について

- ・事務局（山岸主査）から第2期計画案について説明があった後、本間会長から各委員に意見を求めたところ、以下の発言があった。

▽石田委員

- ・計画の施策の中で「⑥ 交流人口の増加を目指す」とあるが、先日総合体育館で開催されたフットサルの大会を見ていると、小学生の試合には多くの観客が集まっていた。
- ・子どもを中心にスポットを当てることで、交流人口の増加が見込めるのではないか。

▽植村委員

- ・苫小牧市にはレッドイーグルス北海道があり、プロスポーツチームの存在は地域の活性化に寄与すると考えている。今回、名古屋グランパスの合宿が決定したが、空港からのアクセスの良さや冷涼な気候などをもっとアピールしていく必要があるのではないか。
- ・北海道日本ハムファイターズの2軍施設誘致の話もあるが、ファイターズが来てくれるとまちはもっと活性化すると思うので、市の方でももっと誘致活動を進めてほしい。

▽中村峰子委員

- ・石田委員から先ほど、子どもの大会には親も来るので多くの人が集まるという話があったが、自分の住んでいる地域では子どもが少ないこともあり、何かイベントを企画してもなかなか参加してくれないという現状がある。

▽中村副会長

- ・競技人口が減少しているという課題について、計画案の13ページにあるとおり、市民が重視している点は、費用がかからず身近な場所でスポーツができることである。特にパラスポーツの場合、用具の持ち運びや移動などが大変な負担となっており、身近に適した場所がないことが、競技人口が増えない一因となっている。
 - ・また、パラスポーツ用の車いすなどは高額な用具のため、市が所有している車いすを体育館などで気軽に使える環境を整えば、もっと多くの方が参加しやすくなるのではないか。
- 新しい総合体育館ができる際には、そうした要望も反映されると良いと個人的に考えている。

▽西田委員

- ・ボランティア参加率の目標として、市民の10%を目指すことが掲げられているが、私が関わっている野球クラブチームでは指導者不足が課題となっており、市のサポート制度に応募したところ、野球指導を希望する方とマッチングできて非常に助かった。ただ、応募者は一人で、まだまだ認知されていない印象があるので、より多くの市民に知ってもらい、参加してもらえようようにしてもらえれば。

- ・また、ボランティアといっても、私の周囲は熱心な方が多いが、例えば月に1回や年に1回だけという方も、スポーツボランティアをやったことになると思うので、そういった気軽に参加できる取り組みや募集方法が必要ではないか。
- ・事務局に質問だが、計画にある「市民の10%」という数値は、具体的にどの程度の人数を指しているのか。

▼事務局（神保室長）

- ・高校生や中学生が行っているボランティアもあるが、ここでは主に大人のボランティアを対象としている。

▽西田委員

- ・中高生のボランティアも含めてカウントできれば良いと思う。せっかく7%や20%といった数値目標が掲げられているので、具体的に何人が参加すれば達成できるのか、世代別に落とし込んで政策を決めることで、目標達成に向けた動きが加速するのではないか。

▽藤岡委員

- ・先ほど石田委員が触れられた小学生の大会について、アイスホッケーも同様で、先日 nepia アイスアリーナで小学生の全道大会が開催された際には、多くの観客で埋まっていた。
- ・生涯スポーツの観点になるが、アイスホッケーの場合、50歳以上の方が参加できるオールドタイムリーグがあり、全国・全道大会も開催されている。このように、自分の好きなスポーツを長く続けられる環境があることは素晴らしいことだと思う。他の競技でも同様の全国大会があるかどうかはわからないが、市からもそうした大会開催の機会を作るよう促していただければ、良い環境になると思う。

▽林崎委員

- ・計画案の23ページに掲載されている「氷都とまこまい体感プログラム」という事業があるが、**【実施する主な事業】**の中には、スポーツ都市推進課以外の事業も含まれているので、担当部署名を記載すると、どこで行っているのか分かりやすくなるのではないか。

▽本間会長

- ・スポーツハラスメントの件について、自分もアイスホッケーに関わっているが、パワハラの的な問題が聞こえてくることもある。

- ・指導者への教育も非常に重要な取り組みであると思うし、そういった問題は絶対に苫小牧では起こってはならず、そうした環境を作っていないとスポーツの振興に繋がっていかないので、皆様にもご協力をお願いしたい。

▽西田委員

- ・計画案の21ページに「市民の65%が週1回以上運動を目指します」とあるが、これはいつまでの目標なのか。

▼事務局（山岸主査）

- ・第2期計画の期間である、令和8年度から12年度までの5年間で目指す数値になる。

（その後、本間会長から各委員へ意見を求めたが、特に追加の発言はなく、計画（案）は承認された。）

6 その他

- ・事務局（山岸主査）から、次回の審議会は年度明けてからの開催になることを伝える。

▼事務局（神保室長）

- ・交流人口について話題に挙げたが関連した話として、4月に市の機構改革があり、スポーツ部門と観光部門が統合され、誘客や交流人口の増加に重点を置いた取り組みを新たに進めていくことになった。
- ・スケート競技などを運営できる自治体が少なくなっている現状や、中学校部活動の地域移行に伴いアイスホッケーの中体連が将来的になくなり、それに代わる大会の形態もまだ見えていないことから、そうした大会を苫小牧に誘致できないかと考えている。
- ・また、令和8年にはインカレが苫小牧で開催されることになったが、インカレの開催についてもできる場所が少なくなっているため、積極的に受け入れ、交流人口や観光分野への波及を目指していきたい。
- ・パラスポーツについても、10年ほど前に苫小牧で障がい者スポーツ大会が開催されたが、再度開催できれば、より普及が進むと考えている。こうした機会に限らず、様々なご意見をいただきながら積極的に取り組んでいきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

▽中村委員

- ・とまチョップポイントが終了することになったが、地域の方々にとっては、ポイントがもらえることで歩くモチベーションが上がっていた。今後、それに代わる計画はあるのか。

▼事務局（神保室長）

- ・市長公約の中に「健康アプリ」の導入があり、とまチョップポイント終了に伴い、健康部門と協議して、新たな取り組みについて検討しているところである。

▼事務局（伊藤課長）

- ・最後に事務局から一点。来年度は『スポーツ都市 60 周年』を迎える節目の年となる。
現在、記念事業などについて内部協議をしているが、多くの市民にスポーツに関わる政策を知っていただき、スポーツに携わっていただく年にしたいと考えているので、皆様のご協力をお願いしたい。

7 閉 会